

陳情書

2022年5月1日

環境史および経済史研究を専門としている香川大学名誉教授・村山聡です。現在、世界から500名ほどの参加を得ている東アジア環境史協会をアジア環境史協会へと拡大する準備を進めているところです。ユーラシア大陸におけるアジアの西端にあたる地域・ウクライナでの戦争・紛争は、アジアの東端においても同様の問題を抱える可能性があります。

そのような中、地元の環境問題に関する諸事情を見ますと、多民族社会特有の紛争そのものは日本では幸い回避できているとはいえ、環境行政や道路行政は本当に住民本意で動いているかどうか、大いに疑問に思うところです。そこに住まう住民の意思が十分に反映しているのでしょうか。次の世代に地域社会を引き継ぐことは、個々の地域行政の最も重要な課題です。そしてそれが、大きな地球環境問題の解決に結びつき、新たな世界大戦の火種ともなるような事態を未然に防ぐ最良の手段と考えています。ローカルな世界から常に考えることが重要です。

ご存知のように、計画されている一般県道 太田上町志度線（太田工区・六条工区）は、建設計画が進められており、古川の架橋も間近に迫っています。香川県、讃岐を代表する一つの文化遺産である「高原水車」そのものは、その道路計画からは外れているとはいえ、新たな市道拡張等、そして、その四車線の一般県道が通されることによって、非常に貴重な水系が破壊される危機的状況にあります。

「水車」は水循環の象徴です。また、小麦の製粉を長く持続していた高原水車はうどん県を代表する存在でもあります。それは水不足が常態である香川県において、長期に渡る住民の創意工夫の象徴でもあります。春日川水系全体を考えていくような行政が最も望まれます。

気候危機の時代に、また新たな道路建設は全く不要なのではないでしょうか。すでに建設が進んでいるこの状況で、全く取り合ってもらえないような陳情かもしれません。しかし、人口減少が最短でもさらに50年間は続く現実を踏まえて、今、考えるべきは広大な道路を建設することでは断じてないと考えます。

そもそも、この四車線の一般県道そのものの計画を中止して頂きたいと強く要望します。行政の手腕が問われます。この讃岐の道路行政は、とてもアジアの範とはなりません。もはや、旧来のような車社会の時代ではなく、人が自由に歩くことのできる社会が望まれます。アジア環境史協会創設準備委員会議長として、自分自身の社会的責任として、強く要望する次第です。

昨日、高原家に残されている明治時代以降の千点以上に及ぶ文書群を見させてもらいました。そしてそれは、私の本来の専門である比較環境史の立場からすれば、さらにそれ以前にも遡ることのできる「持続」の結果としての高原水車であることも確認できました。数百年を優に超える持続性こそが、本来のSDGsの目的に叶うものと確信しております。

香川県知事として、次世代に残すべきは道路でしょうか。持続する生態系と共に生きる人びとではないでしょうか。ぜひ、この機会に、この計画を根本から見直す大英断を下し、世界に範たる環境立“国”讃岐を示されてはいかがでしょうか。一度、この計画を取りやめにすると考えれば、住民たちが歩き、集い、生活することのできる無限の可能性がより良く見えてくると思います。

アジア環境史協会創設準備委員会・議長
Chair, Asian Association for Environmental History Founding Committee, AEAEH
(<http://www.aeah.org>)

香川大学名誉教授
村山 聡

URL: <https://researchmap.jp/read0188434/>
Email: murayama.satoshi@kagawa-u.ac.jp
Phone: 087-881-8868 / 090-4782-0435